

radiatus circ. 5, 2.5 cm. longus 4 mm. latus, tubulosus 13 mm. longus, pars angusta tubi 6 mm. longa. Pappus sordidus 6 mm. longus.

Nom. Jap. KAI-TAKARAKO n. n.

Hab. Hondo : Prov. Kai : mt. Jido, Saino-kawara (26 Jul. 1931 S. KITAMURA)——Typus!, prope Kitaomuro (13 aug. 1932 M. TAGAWA), mt. Komagatake (sept. 1905 U. FAURIE n. 7037), mt. Yatsugatake (aug. 1913 U. FAURIE n. 3955).

LÉVEILLÉ 氏の日鮮 *Aster* 行状記

北 村 四 郎

H. LÉVEILLÉ 氏は日鮮の *Aster* 屬に可成りの新種を發表した。京大には LÉVEILLÉ 氏の Duplicate Type が可成りあるのでこの Duplicate Type の identification に依つて以下現在標品のある者につき批評する。

1) *Aster depauperatus* LÉVE'L. et VAN'T. in Bull. Acad. Géogr. Bot. XX Mém. (1909) p. 142 - Corea = *Aster ciliosa* KITAMURA. これは従來日本の學者が *Aster altaicus* WILLD. にあてゝた植物で本物の *A. altaicus* WILLD. とは異なるので LÉVEILLÉ 氏のが起用されるのかと思つたら其の前年 FERNALD 氏が同名を異なる植物につけてあるので永久に駄目になつた。

2) *Aster Fauriei* LÉVE'L. et VAN'T. in FEDDE, Rep. Nov. Sp. VII 102 (Mai 1909) - Sachalin = *Aster tataricus* L. f. var. *Fauriei* (LÉVE'L. et VAN'T.) KITAM., Comp. Nov. Jap. I (1931) p. 19.

3) *Aster Fauriei* LÉVE'L. et VAN'T. in Bull. l. c. (Aug. 1909) 139 - Corea = *Aster Feddei* L. et V. in FEDDE, Rep. Nov. Sp. VIII (1910) = *Aster spathulifolius* MAXIM. in Mém. Biol. VIII (1871) p. 7.

3) *Aster fusanensis* LÉVE'L. et VAN'T. in Bull. l. c. p. 139 - Corea = *Heteropappus hispidus* LESS. Syn. Comp. (1832) p. 189.

4) *Aster Hayatae* LÉVE'L. et VAN'T. in Bull. l. c. 143 - Corea これに適中した、こゝに起用する、濟州島の漢拏山の高地に生えるもので一見 *Erigeron* の様に見える。ヤマヂノギクに比し矮性で、枝は地を匍ふが如くに開出し、葉は極めて小さく、枝上に一花をつけ単一で繖房状にはつかぬ、姿の變なものである。筆者は濟州島で自身採集して少々意外だつた。

5) *Aster horridifolius* L. et V. l. c. 141 - Corea - 目下標品發見せず。

- 6) *Aster Komarovi* L. et V. l. c. 142 - Corea = *Aster scaber* THUNB., Fl. Jap. (1784) p. 316.
- 7) *Aster korsakoviensis* L. et V. in FEDDE Rep. Nov. Sp. VII (1909) p. 103 - Sachalin = *Aster Glehni* Fr. SCHMIDT, Reisen Amurl. (1868) p. 146.
- 8) *Aster macrodon* L. et V. in Bull. l. c. 141 - Corea = *Asteromoea incisa* KOIDZ., in Tokyo Bot. Mag. XXXVII (1923) p. 56.
- 9) *Aster macrolophus* L. et V. l. c. 141 - Corea = *Aster Tripolium* L. Sp. Pl. II (1753) p. 872.
- 10) *Aster micranthus* L. et V. l. c. 140 - Corea = *Aster fastigiatus* FISCH. et MEY. Mém. Soc. Nat. Moscou III (1812) p. 74.
- 11) *Aster Nakaii* L. et V. l. c. 140 - Corea = *Aster tataricus* L. f. var. *Nakaii* (L. et V.) KITAMURA, Comp. Nov. Jap. I (1931) p. 20.
- 12) *Aster papposissimus* LÉVEILLÉ in FEDDE Rep. Nov. Sp. VIII (1910) 282 - Corea = *Aster Tripolium* L. Sp. Pl. II (1753) p. 872.
- 13) *Aster quelpaertensis* L. et V. in Bull. l. c. 140 - Corea = *Aster ageratoides* TURCZ. var. *adustus* MAXIM., Prim. Fl. Amur. (1859) p. 144. 尙小生は本植物は本州、九州、四國に發見しない。
- 14) *Aster rupicola* L. et V. in Bull. l. c. 142 - Corea = *Heteropappus rupicola* (L. et V.) KITAMURA, in Acta Phytotax. Geobot. I (1932) p. 146 = *Heteropappus chejuensis* KITAMURA nomen nov. これも適つたものゝ一つであるが *Aster rupicola* なる名稱は BURGESS が 1906 年に用ひてゐるので死んだ學名である。死んだ學名を知らずに新組合せに用ひたのは 小生の不注意で こゝに新名を附けて名稱を變更する。
- 15) *Aster ursinus* LÉVEILLÉ in FEDDE, Rep. Nov. Sp. XII (1913) p. 100 - Corea 目下標品を發見せず。中井博士に依れば *Aster indicus* L. なりと。

植物分類學者の中には種を大きく見る人と小さく見る人とある。故に人によりある植物群につき種にするか變種にするか意見が異なる。且つ又植物命名規約に對して種々意見が學者に依り異なり、これで學名が又人に依り異なる。然し上述の理由で其の學名が使用されなくとも、名は實の次で植物群そのものゝ形質を明瞭にしてあれば分類學上貴く、其の文獻を手にする人に感激をおぼえしめる。故人の精神を直接にまざまざと感ずる。

LÉVEILLÉ 氏の記載を讀んでこの感激は一向出て來ない。何を書いてゐるのかさつぱりわからぬ、何處をつかまえて植物群を區別してゐるのか筆者には不明である。分

類上書かねばならぬ性質が書いてない、其の短かい文章はキビキビした特質の羅列でなく、實に分類學上、下らぬ形質が書いてある。Type がなくなれば永久に不明とならう。種名が不注意の爲めに使用されぬ場合は 歴代分類學の大家に決して珍しい事ではなく、青二才の小生の如きは度々不注意の爲めに自分でつけた學名を自分で廢さなければならぬので、まことに恐縮の至りである。

然し歴代大家の捨られた學名の文獻はたゞ其の名だけが使用されぬだけで、主たる記載は永久に文獻として重要であり、分類學の基礎となる。

LÉVEILLÉ 氏の書いたものゝ中、まれに後に使用される學名があつたとしても、これは科學への功獻でなく混亂である。其の文獻を讀む人ごとに永久に不快を感じる事と思ふ。東亞には THUNBERG 氏以來今日に到るまで こんな人はこの人一人である。

抄 録

結城嘉美氏：—山形縣植物誌 (Yoshimi YUKI: — Florula Yamagata-
praefecturaeana. Yamagata Japan 1934).

結城氏は山形中學校に奉職され 縣下の植物の熱心なる調査に従事し既に十餘年に及ぶ。今度同中學校創立五十周年にあたり記念として山形縣植物誌を出版された。本書は現在同地方より報告された全部の文獻を挙げ且つ同氏の採集に依る新植物が發表されてあり、今後の研究の基礎となるべきものである。内容は小泉博士の山形縣植物地理略に始まり結城氏の分布論あり、羊齒植物より蘭科に及ぶ詳細なる植物目録である。巻頭には十八葉の珍植物の寫眞をかゝり巻末には山形縣の地圖がある。本文中の新植物には *Ariosorbus uzonensis* KOIDZ. gen. et sp. nov. デハノハゴロモナナカマド、*Vaccinium Motosukeanum* KOIDZ. sp. nov. マルバカクミノスノキ、*Veronica incanovelutina* KOIDZ. sp. nov. オニルリトラノヲ、*Ligustrum Yuhkianum* KOIDZ. sp. nov. オクノハマイボタ、*Cacalia aizuwensis* KOIDZ. var. *Yukii* KITAMURA var. nov. オホミミドホナ、*Artemisia subintegra* KITAMURA トビシマオトコヨモギ等が發表されてある。

この書は山形縣の人士は無論、他の地方で植物誌を編輯される方々にとつても良參考書であると思ふ。筆者は結城氏の熱心なる努力に謹んで敬意を表するものである。

〔結城氏出版 實費一圓六十錢 送料十錢〕(北村四郎)